

明治時代のインジケーター

野球のルーツは、バットとボールを使うイギリスの子どもの遊びにあるといわれています。これがアメリカに伝わり、さまざまなルールとさまざまな名前で、盛んに行われていました。その中で、1845年にニューヨークのニッカーボッカーというクラブ（社交クラブ）が自分たちのチームのルールを定めました。初めはニューヨーク式（ニューヨークゲーム）と呼ばれていたこのルールが広まり、ここから野球というスポーツへ発展していきます。ルールもさらに整備されて、1900年ごろまでに現在の野球に近い形になりました。

ルールが整備される中で、現在のように「4ボールで一塁」となるのは1889（明治22）年です。大リーグのナショナル・リーグが始まった1876年には「9ボールで一塁」でしたが、その後8、7、6ボールとなり、1887年に5ボールになりました。

写真のインジケーターは、1906（明治39）年の早慶戦で審判を務めた三島弥彦氏が使っていたものです。すでに4ボールの時代でしたが、5ボール（1887、88年）、4ストライク（1887年のみ）までカウントでき、より古い時代のルールを表しています。

